

## 冬山・雪山シリーズ ハケ岳「赤岳」

日程：2016年 1月9-10日

メンバー：2名（F、K）

報告：K



下りの文三郎尾根より、阿弥陀岳。左の稜線が南稜。  
右奥の稜線が北西稜、その手前が北稜。

本来は「赤岳～横岳～硫黄岳」縦走であった。天候をウォッチした限りでは、8日に南岸沿いに低気圧が通過して、ゆるい西高東低の気圧配置となるが、早々に南から高気圧が移動性となり張り出し、9日、10日は晴れ、縦走日和と思えたのですが・・・。

1月9日（土）晴れ

朝7時、西八王子駅北口。F車にて出発。「天候は良さそうですね」と話したところ、「8日のヤマテンの予報では、10日のハケ岳の稜線上は、20メートル前後の強風が吹く」とのこと。縦走は無理か？の予感。

中央道も山梨県に入ると富士山、奥秩父、南アルプスと山々の風景が広がる。晴れ渡り山頂まで良く見渡せる。他方、ハケ岳は？とみると灰色の雲が覆う。まだ、季節風による雪雲や強風が残っている証しかも知れない。

美濃戸口から赤岳山荘までは凍結が心配されたが、道路脇の露出土には霜柱が立っているものの、雪も無く凍結も見られない。路面の凹凸状態が激しいが、無事、美濃戸の赤岳山荘に到着(9:30)。

車を降りると、寒さは身にしみるものの雪は無く、駐車場わきにアイスクライミングのゲレンデも十分な凍結状態には至っていない。冬山装備に着替え、不要な荷物を車に残し、アイゼンなどの登攀用具や食糧、衣類、非常用の装備など不可欠なものに絞りパッキングして出発(10:15)。

南沢は行者小屋までほとんど雪がないのでは？という様相だが、沢筋の水流部分や水たまり部分は、凍結しており滑りやすく危険。登るにつれて徐々にスケート・リンク状のところが出てきたところでアイゼンを着用。



南沢の上部より、大同心と小同心。

行者小屋が近づいてくると黒々とした樹木帯の合間から、白く光り輝く横岳の西壁が現れる。いつもながら神々しい風景である。シャッターを切るが、なかなか思う様には取れない。13:25 行者小屋着。

行動食をとり、地蔵尾根に向けて稜線上の強風や寒気に備えてあらためて身支度も整える。また気になっていたアイゼンの不具合も調整する。14時、行者小屋を出発。地蔵尾根を少し登ったとことでFさんに体調の異変があり、大事を取り行者小屋に泊まることとする。14:50 行者小屋着。

宿泊者は20~30人か、混みあうほどでもない。2階部屋に上がり炬燵に入り、Fさん持参の「越乃寒梅」を頂きながら、夕食までの時間帯をくつろぐ。17:30 夕食(カレーライス、ソーセージ、トマト、グレープフルーツなど)。夕食後、明日に備えての荷物を整理して、就寝(消灯20:30)

1月10日(日)曇り時々晴れ

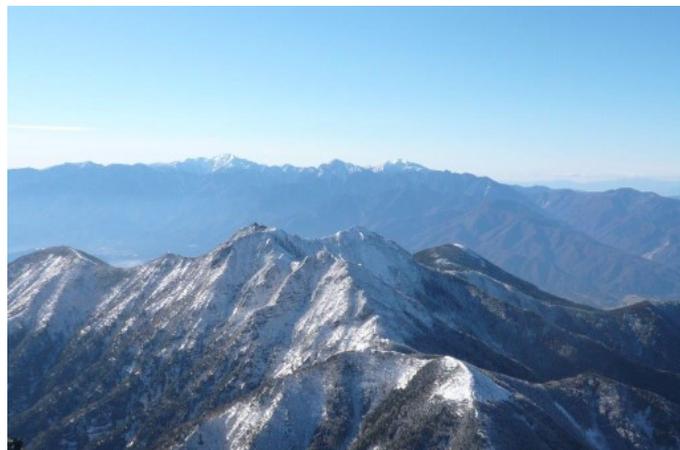
Fさん体調回復。見上げると稜線はガスで見えず、強風も予想される(昨日のヤマテンでは18m/s)ことから縦走は中止して、地蔵尾根~赤岳~文三郎道をへて行者小屋に戻ることにする。余分な荷物を行者小屋にデポして7:35 行者小屋を出発。

地蔵尾根は雪も少なく、梯子階段なども露出ししており歩きに困難はない。先行Pを何組か追い抜いて、順調に高度を上げると、ガスが徐々に少なくなり展望が広がってきた。阿弥陀岳の上部は雲がかかり、風が強そうだ。やがて地蔵の頭に出る。さすがに風が強く、赤岳山頂までの稜線も地吹雪的な様相。が、あと一息である。飛び込んだ天望荘で、暖かいコーヒーと行動食を頂きながら、大休憩。



地蔵の頭付近より赤岳。少しガスが晴れてきました。

山頂までの稜線は冷たい強風に吹かれながら、ノロノロと行く。30分ほどで赤岳山頂着。ガスが晴れ、南アルプス、富士山、奥秩父など展望が開ける。強風のため硫黄岳までの縦走は果たせなかったが、無事赤岳の頂上を踏み記念撮影。寒さに押し出されるように、早々に山頂発。文三郎道をFさんと赤岳や阿弥陀岳の登攀ルートを確認しながら行者小屋まで下る。



赤岳山頂より、権現岳方面の眺望。  
ガスはすっかり晴れました。

美濃戸への帰路は、赤岳鉱泉を経由して北沢にルートを探る。多様な登山者とすれ違う。ヘルメット着用の登山者、アイスバイルやピッケルの登山者、赤岳鉱泉ではアイスクライミングのグレンデが作られ、多数のザイルがかかる。女性の登山者も多く単独やTシャツの登山者ともすれ違う。

美濃戸まで車で入れることで、アプローチも容易となり、ガイド登山なども一般的となっている。ハヶ岳の登山模様も変わってきていることをあらためて実感。

14:25 美濃戸赤岳山荘に下山。同日にツルネ東稜から権現岳を目指していたYさんと連絡を取り合い、小沢沢道の駅の温泉「延命の湯」にて合流。三人で露天風呂に浸かり、山の疲れを癒しつつ山談議。長湯となった。創立記念祝賀会での再会を約束して帰路に着いた。

#### <コースタイム>

- 1/9 (土) 美濃戸赤岳山荘 (9:30~10:15) → 行者小屋 (13:25~14:00) → 地藏尾根戻り (14:30) → 行者小屋着 (14:50)
- 1/10 (日) 行者小屋発 (7:35) → 地藏尾根を登る → 赤岳天望荘 (8:55~9:30) → 赤岳 (10:00~10:10) → 文三郎尾根を下る → 行者小屋 (11:10~50) → 中山峠 (11:55) → 赤岳鉱泉 (12:15~35) → 美濃戸赤岳山荘 (14:25)